

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

令和3年 4月 8日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 京都大学大学院医学研究科、医学教育・国際化推進センター

職 名 研究員

氏 名 森下 真理子

助 成 の 種 類	令和 3 年 度 ・ 研究活動推進助成			
申請時の科研費 研究 課 題 名	近代医学教育掛図の教育的意図に関する研究			
上記以外で助成金 を 充 当 した 研 究 内 容				
助成金充当に関 わる共同研究者	(所属・職名・氏名) 京都大学名誉教授、日合弘、京都大学医学教育・国際化推進センター・講師・山本憲 京都大学 総合博物館 五島敏芳			
発表学会文献等	(この研究成果を発表した学会・文献等)			
成 果 の 概 要	研究内容・研究成果・今後の見通しなどについて、簡略に、A4版・和文で作成し、 添付して下さい。(タイトルは「成果の概要／報告者名」)			
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	1,000,000	円	
	使用した助成金額	1,000,000	円	
	返納すべき助成金額	0	円	
	助成金の使途内訳	費 目	金 額	
		医学教育掛図デジタル撮影	476,960	
		簡易補修作業(撮影のため)	404,800	
		卷子用タウ箱(8箱)	82,192	
		デジタルデータ格納用HDD	16,300	
画像データ格納	5,500			
バックアップ用HDD	12,800			
郵送費	1,448			
当財団の助成に つ い て	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度は助成をいただきまして本当にありがとうございました。教育掛図の研究を行う上で必要なデジタル撮影およびそのための修復に関して使わせていただきました。こういった研究の初期段階に対して助成をいただけることは非常にありがたいことでした。今後とも、研究実施の初期段階も対象となるような本助成を是非とも継続いただければ幸いです。			

## 近代医学教育掛図の教育的意図に関する研究

**【研究内容】** 京都大学医学部で過去に使用された歴史的医学教材のうち、医学教育掛図（中でも解剖学教室で教育のために制作・使用されたと考えられる解剖学教育掛図：以下解剖学掛図）について、制作・使用時期や種類（描かれた内容、描き方）、使用方法を調査し、その教育的意義（意図）を明らかにすることが本研究の目的である。

本研究にあたり主な調査対象となる解剖学掛図は劣化が激しいため、デジタル・アーカイブ化を実施し、デジタル画像を用いての調査が必須であると考えられた。そのため、本助成は解剖学掛図のデジタル撮影及びアーカイブ化を目的として申請し使用した。デジタル・アーカイブ化によって、掛図の題材だけでなく、描き方に関する調査及び、国内の他大学に残されている解剖学掛図コレクションとの比較が可能となり、同掛図を用いた教育の特徴や他コレクションとの同異を明らかにすることができると考えられる。また今回研究対象とする解剖学掛図は、解剖学教室で制作・使用されたと考えられているが、制作時期や制作者が同定されていない。このため、今回は、解剖学掛図の中でも、制作時期同定の手がかりになる可能性のある解剖学用語が豊富に記載された肉眼神経解剖学掛図をデジタル・アーカイブ化の対象とすることとした。

### 【研究成果】

- 1) デジタル撮影対象の選定過程：解剖学教育掛図に対して、薫蒸前に作成していた目録より、大まかに分類を実施した。このうち、年代の同定に手がかりとなる解剖学用語が豊富に書き込まれていることから、肉眼神経解剖学掛図の一群を今回、デジタル撮影の対象群として選択することとした。  
また、肉眼解剖学掛図については、他大学でも収蔵されていることが確認されている。内容や画法・画材など、同種類の図同士との比較が可能であろうと考えたことも今回、肉眼神経解剖学掛図を選択した理由である。
- 2) デジタル撮影のための搬出前：解剖学掛図の薫蒸前に作成していた目録および撮影写真とデジタル化を予定する肉眼神経解剖学掛図の番号の整合性を確認した。この際、目録と掛図間で付与番号が一致しないものがあることが同定されたため、デジタル撮影時に目録と図、番号について再度確認が必要となることがわかった。また、現在の掛図の保管環境について専門家に確認いただき、湿度・温度管理方法、紙の被覆による乾燥予防実施を行う旨指導を受けた。
- 3) デジタル撮影：掛け軸上に巻いた状態で保管されていた掛図1本1本を開いたところ紙及び台紙の乾燥のためにひび割れが容易に生じることが判明した。このため割れた状態をつなぎ合わせるための修復処置を加え、破片が元の位置にある状態をできる限り保っての撮影となった。
- 4) デジタル撮影後：掛図のデジタルデータはハードディスクに保管し今後、京都大学デジタルアーカイブシステム（研究資源アーカイブ運用）より公開予定である。掛図は巻いた状態で保管箱（紙製）に入れて収納した。現在、収納スペースの問題上、掛図は巻いた状態で箱に入っているが、再度のひび割れ・劣化による悪化は免れず、今後保管方法については検討が必要であることがわかっている。解剖学掛図を研究対象とするためのデジタル・アーカイブ化へ向けて、今回の教育学掛図のデジタル撮影を実施したが、その保管・修復過程についても記述し他掛図の保存・修復との比較を加えながら今後の保管・修復に役立てる必要があることもわかった。本研究で得た掛図の保存・修復過程の情報は、保存科学へ貢献するものと期待できる。